



たもんじ 交流農園

2021年10月号
Vol.43



“かくして農園は造られた”～副理事長を退任するにあたって～ 顧問 矢下 春男

シリーズ:理事長
(令副)を退任して



『まちなか農園プロジェクト』と称して、向島中学校を農園にしようという計画は、毎月定例会で話していたし、高木さんや牛久さんたちが、墨田区に申請書を出しに行ったりもしたけれど、正直実現できるような気がしていませんでした。2017年3月だったかに林さんから、多聞寺の駐車場を紹介された時も、こんな砂利ばかりのところでは雑草以外何も育たないと思いました。しかしいつのまにか、いくらやっても終わらない雑草刈りやダンプで運んできた何トンもの土をケイタ君で囲った四角いブロックにシャベルで運びこむ作業に熱中していました。最初ただの空き地だったところが、枠ができて土が入り、物置ができて、だんだん畑らしくなっていくのがひたすら楽しかったですね。

2年目には池を掘り、ウッドデッキを作り、3年目には芝生や入口の門もできました。もうあまり作るものはなくなってきましたが、周りの囲いの雑草取りやコンポストによる肥料づくりなど、まだまだ楽しみはつきません。

副理事長としては、何も出来なかったと思っていますが、楽しくできた事が一番かなと思っています。同じように楽しんで頂いた方がいたとすると、それは大変嬉しいことです。



スクリューの 新・農園のお隣さんご紹介 区画 12-1② 浅見 理恵さん



みなさま よろしくお願ひます!

- ① 墨田区生まれの墨田区育ちです。縁あって静岡に数年暮らしたことがあるのですが、その時に家庭菜園をしていたので、東京に戻ってきて、また土いじりがしたいと思って今回申し込みました。よろしくお願いします。
- ② 江戸野菜、豆類や夏野菜は作るのが今から楽しみです。
- ③ 無農薬で野菜さんたちの力強さを感じながら、土をいじり、都会の生活の中でも自然を感じていきたいです。光を浴びながら、汗をかいて、野菜づくりを楽しみます。



“てらたま農園部から”

第3回 ～たい肥作りが進んでいます!!～

畑の雑草や収穫後の茎や根などの残渣はゴミ処分せずにたい肥にしています。(写真1)のように積み上げられたものは、米ぬかやたい肥促進菌を入れて踏みつけておくと、夏場なら半年位ですっきりたい肥になります(写真2)。自然の力は凄いですね。

ただ残念なことに殺菌できる程に高温で処理できないため、病原菌が紛れてしまうこともあります。(写真3)は根こぶ病になった寺島なすの根です。病気の原因は菌、カビ、害虫など様々ですが、栽培途中に病気で弱った苗や極端に害虫がついてしまった葉茎などは、たい肥場に入れずに、横のビニール袋に入れてください。

また太い枝や繊維の堅い茎は分解に時間がかかるので出来るだけ細かく切ると分解が早まります。ちょっとひと手間で良いたい肥にリメイクさせたいですね



写真1: Before



写真2: After



写真3

第17回 今でも、浸かっています! 中西てい子さんの場合



2016年に初めて開いた「江戸に浸かる。」。このタイトルは初回のすみゆめに企画書を応募するとき、創造力豊かな牛久さんの確信的な閃きで生まれたものです。私は江戸にタイムスリップ的な名前を考えていたのですが、最初に聞いた時、浸かるって? 浸る(ひたる)の間違いじゃないの? とセンスのない私は思いました(笑)。しかし、私は後にこの名の素晴らしさに思い知らされたのです。まさにタイトル通りにどっぷりと「江戸に浸かる。」に浸かってしまったからです。でもそこまで“浸る”のには、実は、理由があったんです。

私は子どもの頃、毎年夏休みはおばあちゃんの田舎で過ごしていました。田舎での日々は私の好奇心をくすぐることばかりでとても面白く刺激的なものでした。おばあちゃんの機織り機、お盆にお仏壇に飾られる回り灯籠、神社のお祭りでは総出で料理を作って、夜は提灯を持ってお墓参り、翌朝は早起きしてお墓にお供えしたお菓子を頂きに行ったり、村の青年団が主催するカラオケ大会や野外の映画鑑賞会に近所のお兄さんやお姉さんと一緒に行ったり、数十分間に1回ポーンと上がる花火大会の花火を小さな橋の上で皆んなで眺めたり、全てが非日常的でワクワクするイベントの連続でした。

初めての「江戸に浸かる。」を作り上げたとき、この子どもの頃の記憶が何度も蘇り、懐かしさとワクワク感で私の心は満たされていました。校庭に川が流れ、太鼓橋が掛かり、屋台が並び、灯りとともに踊れや唄え、大人も子どもも入り交じって遊ぶ姿、そう、それは将に私の中にあった原風景だったのです。

回を重ねるごとにどんどん広がった「江戸に浸かる。」そこには毎回変わらない素朴さと懐かしさ、手作り感が源にありました。でも今年2021年は、見送ることになってしまいました。

しかし私の心の奥底に残っていた何かを思い出させてくれた「江戸に浸かる。」に、きっとまた浸かりたくなるのでしょね。そのときまた一緒に浸かってもらえたら嬉しいです。



ホタルの幼虫をご家庭で育ててみませんか? ~蛍プロジェクトのご案内



2022年にホタルの光ををたもんじ交流農園のピオトープに放すまでの間、ご家庭で子供たちと幼虫を育てて頂く方を募集しています。ホタルの幼虫と飼育容器は無償でお貸しします。そして来年7月頃に蛍の光をみんなと一緒に観賞しましょう!

◆申込み方法: info@teratama.tokyo に①お名前、②ご住所、③連絡先、④お子様の学年、⑤ホタル幼虫育て方講習会(一回目 10/22(金)18時~(鐘ヶ淵町会館)、二回目 10/24(日)14時~(たもんじ交流農園)の希望日時を記載の上、お申込み願います。

◆申込み締切日: 10/20日(水)、◆申込み予定数: 16名(先着順)

水ロアドバイザーご指導日: 11/21(日) 12/12(日) 各 10:00~ 農園部作業日: 毎週日曜 9:00~

江戸に浸かる。スピンアウト企画!!

青果!ルーとトーチキス

11/3(祝) 11:30頃、青果が農園にやってくる!!
そして寺島ナスを使って「トーチキス」をやろうかと

近日開催可否決定予定 BBQ 大会

農園を造るや野菜を作るばかりでなく、たまには携わっている仲間と、農園で、野菜を(肉も?)食べながら、和気あいあいと将来の農園ライフについて語り合おうというBBQ大会をしたい!(牛久記)。



たもんじ交流農園便り
No.43-般 2021.10.18 発行
題字 田村風來門
編集 末林和之



HomePage

てらたま協議会
(NPO 法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)
問い合わせ先 小川 剛(080-3421-3115)

セブン-イレブン記念財団



Facebook